■評価委員会からいただいたご意見

基本方針①共に学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します
施策の柱②熱意と指導力のある教員の育成

１－２－１　各教科研究研修関係事業
【ご意見】 〇実践的な授業研究として重要な取り組みであると思う。県の年次研修と組み合わされて適切に行われ、事業の成果や効果も認められるが、新学習指導要領の実施に伴い、授業数が増え、放課後の時間が少なくなっている中で、研修が教員の負担増になっていないか、また、研修というと「研究」と「修養」ということであるが、受け身になっていないかという点が課題としてあると思われるので、配慮してほしい。 〇研修で教師の底上げが図られることは喜ばしいことである。本来の研修に併せて、子どもたちにとって魅力ある先生、個性的な授業ができる先生の指導も行ってほしい。
【ご意見に対する方向性】 今後も、今日的教育課題や教員のニーズに沿った研修の内容・形式や方法を検討し、さらなる充実を図っていきます。
１－２－２　教育文化センター研究研修事業
【ご意見】 〇総合的な視点からの展開をという前年度の指摘事項については、教育指導課が校内研究推進担当者会を組織して情報交換や研究交流を行っていることや、校内研修会に教育文化センターの指導主事が参加するなど対応が図られ、概ね適切であると判断する。昨年も指摘したが、信頼される学校づくりを進めていく上で、教職員の研修についてどのように行っているのか保護者・市民に広く知っていただくよう広報活動を活発にしてほしい。
【ご意見に対する方向性】 教職員の研修に関する広報につきましては、教育文化センターのホームページでの紹介を今後とも継続して実施するとともに、内容の検討を行います。
１－２－３　ふじさわティーチャーズカレッジ「学びあい」事業
【ご意見】 〇教員としての資質と技量を高めるという目的も適切であり、効果・成果もそれなりに達成していると思われ、藤沢市の採用数も伸びているということで、概ね適切である。「学びあい」というタイトルどおり、新任教員の実践的な知識、技能の習得と近年増加している臨時的任用教員の資質・能力の向上のための研修がうまく機能しているとのことだが、潜在的に目的が違う部分がないのかと思うところがあり、理論的にはそれぞれ区別した研修もあり得ると思われる。 臨時的任用教員の研修の場があることはとても良い。 〇話を聞いて心強く思った。若くても経験豊富な先生が増えてほしい。FTCで藤沢の教師になりたい人を育ててほしい。 〇年々合格者が増加している。藤沢市を希望する教員志望者が増えていることは、大いに評価したい。
【ご意見に対する方向性】 正規教員とは違い、臨時的任用教員等の公的研修の場が無いことは課題であると捉えています。そのため本市では、FTC開講以来、藤沢の教師を目指す者と臨時的任用教員等が、自身を持って教壇に立ち授業が行えるよう、学級づくりの基礎や各教科指導法、保護者対応等を含め、全般にわたり細やかな指導をしています。 ご指摘の「潜在的に目的が違う部分がないのか」ということについては、経験豊富な運営指導員が相談に応じたり、実際の授業を見学して授業指導を行ったりするなど、受講生のサポートをしています。今後もご意見を参考に、より内容の充実に務めてまいります。

●施策の柱「②熱意と指導力のある教員の育成」の3事業について

藤沢市の先生方はいろいろな考え方、教育観をお持ちの方がいて、それはある意味では多様性の中で協力して学校を作っていく力があると言えます。そういう意味では各教科の研修の事業でも教育文化センターの事業でも、いろいろな形で研修を考えていることがわかります。以前、私はある市の研修システムについて検討する会の委員になった時に、ニーズに合う研修が大事と発言しました。もちろん学習指導要領の内容が変わり、中身についてしっかり把握することも大事なんですが、若い先生の場合はわからないところも多くあり、学校の中でもなかなか相談できない状況もあります。そういうときに、助け船を出すような手立てとして指導主事の方々が学校を訪問し、そこで経験談などのアドバイスをしてもらえればいいのではないかと思っています。私は、以前から全体が集まってレクチャーをするというのは最小限度にして、訪問やニーズにあった研修、アドバイスをするシステムを作ったら良いと言っています。

若い先生とベテランの先生というのは、良いところと悪いところがちょうどコインの裏表。若い頃の私の授業は下手でしたが、教え子が、「でも先生一生懸命教えてたよね」と言ってくれます。若さがいろいろなものをカバーしてくれるところがあるんです。それを一概に未熟とは言えない。未熟の中にもいろんな芽がある。そのほうがまた子どもたちのことを理解できる。同時にベテランになると落ち着きがあって全体が見えますので、技術や経験で乗り切れるが、逆に言うと子どもたちが本音を言わなくなるかもしれない。そういう一長一短があると考えます。往々にして研修というと、若い人にしっかりこれこれを教えるというふうになりがちですが、むしろ、若い人のやる気や意欲や参加意識を引き出す研修を組んでいただきたい。それにはニーズ調査を深めながらやっていただければと思った次第です。

（高橋勝委員長）

基本方針①共に学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します
施策の柱⑤一人ひとりのニーズに対する教育の推進

１－５－１　特別支援教育推進事業
【ご意見】 〇居住区内の学校に就学できるのは親にとっても子どもにとっても大切なこと。地域で学習し地域の催しに参加できるという当たり前のことをこれからも行ってほしい。 〇生活形態が多様になってきている日本社会に子どもたちは置かれている。藤沢市でも例外ではなく、介助員の派遣を大がかりに進めてきたことがよくわかる。 〇本施策の必要性が高まっているということを理解する上で、6万時間の介助員の派遣を行ったという部分が理解しづらい。表現の工夫をしてほしい。
【ご意見に対する方向性】 ・今後も、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、取り組みの成果と課題を検証しながら、事業の充実を図っていきます。 ・具体的かつ簡潔な報告書の作成に努めます。
１－５－２　学校教育相談センター事業
【ご意見】 〇相談に来るのを待つだけでなく、こちらから出かけていく訪問型の学習支援や相談ができないか。他市で積極的に行っている事例がある。 〇相談の前年度比件数を見るといずれの相談件数も増加している。内部データにとどまらず、これらの問題に教育委員会はしっかり対応してきたことをいろいろな形でPRすべき。学校教育には家庭・地域・行政がフォローしていくことが大切である。 〇スクールソーシャルワーカー（SSW）が対応しなければならない家庭の問題が増えてきている。SSWの人数を増やすだけでなく資質の向上を期待したい。

【ご意見に対する方向性】

ケースによっては、学校と連携して家庭訪問を行っています。今後も個々に応じた対応について工夫していきます。また、相談にあがってくるケースの背景が多様化している現状において、今後もよりよい支援をしていけるよう、関係機関との連携を密にしていくとともに、スクールカウンセラー（SC）やSSWの資質向上にも引き続き努めていきます。

１－５－３ 不登校児童生徒対策事業費

【ご意見】

〇不登校に関して、昔に比べて抵抗が無くなった部分も多少あり、学校に戻りやすくなっている半面、家庭の中でお母さんが孤立してしまうこともある。子どものサポートと併せ、保護者のサポートも必要である。
〇不登校の子どもたちをフォローしていくために、施設と連携を図りながら進めていくハヶ岳のふれあいキャンプは良い事業だと思う。
〇不登校の子がスムーズに学校に戻れるよう学習支援について取り組んでほしい。また、不登校で悩んでいる保護者の相談会などの情報を周知徹底し、支援をお願いしたい。
〇おしゃべり広場は保護者のケアとしては有効的である。続けてほしい。

【ご意見に対する方向性】

不登校状況にある児童生徒およびその保護者には、特に慎重かつきめ細かな指導・支援が必要です。今後も、取り組みの成果と課題を検証しながら、事業の充実を図っていきます。

１－５－４ 中学校学習支援事業

【ご意見】

〇外国籍の生徒もかなり参加しているようで、うまく機能していると思う。
〇基礎学力の定着は、良いこと。今後も続けてほしい。
〇子どもたちの学力には差があり、二極化してきているのはデータに出てきている。夏期休業中などにしっかりフォローアップしてくれる場があるのは良い。アンケート結果でも役に立っていると回答しているのが９８．８％で効果が見えている。是非次年度以降も継続してほしい。

【ご意見に対する方向性】

各校、対象者・科目・日程等様々な形態で、実施校に応じた利用が図られています。
通常は基礎的な学習を行っていますが、試験前や長期休業中などは、生徒それぞれが目的を持って参加しています。
平成24年度からは、全校で実施しています。

●施策の柱「⑤一人ひとりのニーズに対する教育の推進」の4事業について

近年、学習問題や学習不振の問題だけではなく、経済的な問題や家庭環境の問題が非常に大きくなったことを実感しています。学校や教育委員会の中だけでは処理しきれない問題が、年々広がっている気がしており、その辺りの支援体制も、複合的な対応をしていただきたいと思います。学校教育は特別支援や学校教育相談センターなどの機関、児童福祉施設などが連携をしていかなければならない時代となり、大変困難な時代になったと思います。藤沢市はそのようなことに一生懸命取り組んでいると思っています。これは教育だけの問題ではなく、一般行政の福祉関係部署などとの連携が必要でありますので、是非、教育委員会が教育に様々な形で支援をしてほしいということを、声を大にして発信してほしいと思っています。

（高橋勝委員長）

基本方針④多様な学びのできる生涯学習社会を目指します
施策の柱②多様な学びを支援する図書館活動の推進

４－２－１　総合市民図書館運営管理事業
【ご意見】 ○本市の図書館は、書籍は多数あり便利であるが、親子で楽しく読む場であるとかお茶を飲みながら読書する場が少ない。他市の図書館を参考にサービス向上に向けて検討してほしい。 ○図書館の蔵書が充実しているということは、その市のその街の文化的な指標である。その点では総合市民図書館の蔵書数は増えているし、市民満足度が高い。 ○図書館は特定の大人の居場所になってしまっているという印象を受けるが、児童生徒が利用できるような新しい企画、アイディアを持って運営してほしい。
【ご意見に対する方向性】 　今後とも本市図書館の特長である４館１１室のネットワークと蔵書の充実及び市民満足度の高いサービスを継続すると共に、より一層のサービスの向上に向けても検討していきます。
４－２－２　総合市民図書館市民運営事業
【ご意見】 ○NPO法人による辻堂市民図書館運営について、利用状況や市民アンケートなどの４つの観点から検証した結果、NPO法人に運営が委託されたことを知らなかったという人が約8割ということで、ほぼ円滑に移行したということは非常に喜ばしいことである。しかし、利用状況、貸し出し者数が低下したことは、引き続き調査してほしい。 ○図書館は、市民の知る権利を保障する非常に重要な役割を果たしているものなので、そうした公共性がきちんと担保されるような運営として、NPO法人による図書館運営がうまく機能するように見守っていきたい。 ○最近では、スマートフォン等で安価で手軽な読書が可能となったことで、どのように図書館に利用者を呼び戻すことができるのかということも今後の課題である。
【ご意見に対する方向性】 　NPO法人による図書館運営が従来の図書館サービスの水準を維持し、公共性がきちんと担保されるよう、引き続き総合的・複合的に検証していきます。また、利用状況についても、今後とも注意深く推移を見守りたいと考えています。
４－２－５　図書館情報ネットワーク事業
【ご意見】 ○構築できれば便利な事業だが、不具合や故障が発生するなど困難な状況に対応するために、財政的な負担を伴うコンピュータ機器リニューアルが課題としてあった。しかし、資料・情報の迅速・的確な提供を行い、市民サービスの向上を図るためには、特に重要な事業として進めてほしい。
【ご意見に対しての方向性】 　平成２４年度６月にコンピュータ機器及びホームページをリニューアルし、改善を図りました。引き続き県内他図書館や市内大学図書館とも連携し、さらに資料・情報の迅速・的確な提供を行い、市民サービスの向上に努めます。

４－２－６ 障がい者・高齢者への宅配サービス事業
【ご意見】 〇特別なニーズをもつような人々に、多様な学びを支援するきめ細かな事業が積極的に展開されている。 〇多くの方が利用できるよう、広報宣伝に力を入れてほしい。
【ご意見に対する方向性】 今年度リニューアルした図書館ホームページ等も使いながら、利用者及びボランティアの拡大に積極的に取り組んでいきます。
４－２－７ 子ども読書活動推進事業
【ご意見】 〇学校図書館の評判が良い。子どもたちがよく利用するようになった。 〇特別なニーズをもつような人々に、多様な学びを支援するきめ細かな事業が積極的に展開されている。 〇借りた本を大切にする、公共のものを大切にするというルールづくりをお願いしたい。 〇ブックスタート事業は1歳6ヶ月児健診時に絵本を配布することで、お母さんが子どもに読み聞かせを行うことができる。また、家庭の中で日本の古くからの物語や伝記などを、親から子供に伝承していくことが薄れている現在では、絵本や本を読むことで親子のふれあいが創出されることは、大変良いことである。
【ご意見に対する方向性】 「ふじさわ子ども読書プラン２０１５」に基づき、ブックスタート事業や日本古来の昔話を含んだおはなし会、各年齢に合わせた図書資料や情報の提供及び学校図書館への支援など、より一層の充実を図っていきます。
４－２－８ 点字図書館事業
【ご意見】 〇特別なニーズをもつような人々に、多様な学びを支援するきめ細かな事業が積極的に展開されている。 〇意義のある事業なので、今後も拡充してほしい。
【ご意見に対する方向性】 個々の視覚障がい者のニーズにきめ細かく応え、多様な学びを支援するよう努めると共に、引き続きボランティアの育成及び拡充に取り組みます。

●施策の柱「②多様な学びを支援する図書館活動の推進」の6事業について

現在、私が関わっている神奈川県生涯学習審議会での議論で、図書館・公民館・博物館などについて、ただ単に人がそこへ行き新聞を読んだり、本を見たりするというだけではなく、なるべく読書を通じて人間関係のネットを作る場所としたいということがあります。都市化が進むと、単身者やひとりで住む人が多くなります。高齢化というのもありますが、メディア社会ということで子ども達の居場所も分散化されてきます。そこでやはり、本を通じて、子どもと子ども、子どもと大人が繋がっていくというような何かサークルのようなものを作っていただけるように、工夫してほしいと思っています。それがまさに、藤沢市の多様な学びのできる生涯学習社会を目指しているのだという大きな太い柱であり、その中で読書を位置づけていく施策を、是非お願いしたいと思っています。

（高橋勝委員長）